

教師研修へのオンライン導入の試み

渡邊 真紀

はじめに

国際交流基金ロサンゼルス日本語センターでは毎年夏期に初中等日本語教師研修を行っているが、本年度は例年に比べ4日間短縮され内容の縮小を余儀なくされた。しかし研修内容の質を維持するためにはこの時間的制約をなんらかの形で補う必要があり、その解決策として新たに研修期間前にオンラインによる遠隔指導の導入を試みるに至った。本稿はその経緯と内容、そして教師研修の一部オンライン化を継続する上で考慮すべき今後の課題についてまとめたものである。

1. 初中等日本語教師研修概要

平成14年度第9回米国初中等日本語教師研修はウィスコンシン州メナシャ統一学区の Lynn Sessler-Schmaling 氏を客員講師に招き、国際交流基金ロサンゼルス日本語センターで8月5日から10日までの6日間実施された。研修時間は一日7時間の計42時間で、以下の8項目を導入することを目標とした。

- (1) ナショナルスタンダードの概念と構成基本原理
- (2) 学習到達指標サンプル
- (3) 5つのC (Communications, Culture, Connection, Comparisons, Communities) のカリキュラムへの具体的な組み入れ方
- (4) 教科書分析
- (5) 学習シナリオ
- (6) Proficiency に基づいたアクティビティーの導入
- (7) ルーブリック (学習到達度表) を用いた評価法
- (8) 日本語教育のための情報技術の基礎知識

これら8項目のうち今回は(3)をメインにして一日に一つのCについて論じる手法を取り、またそれに平行して(4)から(8)の項目を図1のように導入した。

図1：導入内容のスケジュール

	内容
5日	* ナショナルスタンダード概念のおさらい * Communications Standards の組み入れ方 * 教科書分析
6日	* Communications Standards に有効な副教材 * 日本語教育のための情報技術の基礎知識：みんなの教材サイト紹介 * Proficiency に基づいたアクティビティー * 学習シナリオ
7日	* Culture Standards の組み入れ方と有効な副教材 * 日本語教育のための情報技術の基礎知識：WebQuest * Proficiency に基づいたアクティビティー * アクティビティー作成
8日	* Connection Standards の組み入れ方と有効な副教材 * ルーブリックを用いた評価法 * アクティビティー作成
9日	* Comparisons/Communities Standards の組み入れ方と有効な副教材
10日	シナリオとアクティビティーの発表

時間的制約の元、研修中に(1)と(2)そして(8)の予備知識導入に時間を割くのは不可能であり、またこれら三点については教師と参加者が同じ場になくても指導が可能のため、研修前一ヶ月間(7月1日から8月3日)に渡ってオンラインによる予備研修を行うことにした。

2. オンラインでの指導

オンラインによる研修は初めてということもあり、今回はE-mailと掲示板(以下BBSと略す)のみを用いた。E-mailは主に参加者-講師間での事務連絡やトラブルシューティングのために使い、宿題の提出は全てBBSに掲示させた。

BBSを利用するには、CGI(Common Gateway Interface)と呼ばれるタイプの専用プログラムを作成し、サーバーに組み込まなければならないが、今回は自前のBBSシステムを開発することができなかったため、YYBBSといわれる日本製の無料BBSシステムを利用した。

YYBBSの利点は他の無料BBSのような派手な企業広告がなくカスタマイズが簡易な点にある。

2.1 事前チェック

米国ではコンピュータの利用率が高く、ほとんどの参加者がインターネット利用のための基本知識を持っているが、コンピュータが英語のOSのため日本語化に苦勞する人が多いので、まずE-mailで参加者と連絡を取り自分が使っているコンピュータで日本語での読み書きができ

るかどうかを確認した。

2.2 課題と BBS 投稿

課題は、一週間に一度必読文献 (Reading Assignment) を読み、関連質問に対する答えを BBS に投稿する (Task) という形で 5 回出題した。出題された関連質問は、Sessler-Schmalings 客員講師と共同で作成した。課題の例は図 2 の通りである。

図 2：第 1 週目の課題

Week 1	Reading Assignment: Standards for Foreign Language Learning in the 21st , (1) pp. 7-69 (2) pp. 325-351
	BBS Task: (1) Introduce yourself (2) What are the 5 C's? What is the biggest difference between Standards for Foreign Language Learning" and "Standards for Japanese Language Learning"? (3) What are the 3 modes of communication? (4) In the Culture Standard, what are the 3 main "parts" and how are they interrelated? (5) What is the difference between the two Standards "Connections" and "Comparisons"? (6) What does the Standard "Communities" mean?

米国において BBS は、BlackBoard や WebCT といったシステムを利用したオンラインコース以外では日本ほど一般に浸透していないため、自己紹介を BBS Task の一つ目として BBS に投稿させるという形で基本操作のチュートリアルを行った。また日本語が母国語ではない参加者のために、「投稿する」「返信する」といった BBS の専門用語の説明もした。

必読文献は、主に ACTFL のナショナルスタンダードからの抜粋とインターネットからの文献を用いた。質問内容は第一週質問の一部を除き全て単一の正答のないものばかりなので、参加者の投稿に対する講師のコメントは投稿内容が深刻な脱線に陥らない限り総評に留めて極力参加者の自主的発言を尊重し、詳しいコメントは研修期間中に BBS の投稿に基づいたディスカッション・セッションですることにした。

それぞれの関連質問に対する投稿内容に応じて、参加者の誤解や理解不足の恐れがあると両講師が判断した場合は、相談の上、追いかけて質問 (Discussion Topic) を作成し答えさせた。例え

ば、上記のBBS Task 質問(2)に対して、参加者からは以下のような投稿が見られたため、その結果として下記の追いかけて質問となった。(投稿の転載については本人達の承諾を得ている。)

"The 5 C's are Communication, Culture, Connections, Comparisons, and Communities. The biggest difference between the Standards for FLL and that for JLL is that learning Japanese may take more time than learning Western European languages in achieving the same goals. Also, due to the formality and the complexity of written language, teachers of Japanese might need to use non-authentic materials as well as authentic materials."

"As noted above, the Japanese standards are modified to reflect the unique features of Japanese language and culture (ex: different orthography, social system, etc.). Also, the Japanese standards are K-16 while the basic standards are only K-12."

"The 5 C's consist of Communication, Cultures, Connections, Comparisons, and Communities. The biggest difference in the Standards of Foreign Language Learning and Standards for Japanese Language Learning seem to be in the number of years that it takes to reach the same level of progress (K-12 vs. K-16) due in part to an unrelated writing system."

Discussion Topic:

The time to learn Japanese takes longer. Is it really due to the linguistic difference or just the teaching methods we chose to use? What if it were all oral/aural in class? Or is it just that reading/writing take time away from that?

3. 評価

研修後に参加者が提出したアンケートでは、オンラインによる予備研修は概ね好意的にとらえられ、以下のような利点が挙げられた。

- (1) スタンダードについての基礎知識に対する理解を深めることができた。
- (2) 研修の良い準備になった。
- (3) 他の人がスタンダードをどう理解しているかがわかった。

一方、否定的なコメントを挙げる参加者も見られた。

- (1) 予備研修と研修の内容が重なっていて、時間の無駄だ。
- (2) 予備研修でのディスカッションがあまり研修の内容に反映されていない。

このような否定的なコメントは、今回の研修の全容を構成する際に十分な時間がかけられなかったことに起因するものと考えられ、オンラインを使うことに対する批判は見受けられなかった。

4. 今後の課題

オンラインによる遠隔教育を教師研修に取り入れていくうえで、次の点が今後の課題として考慮すべきと考えられる。

4.1 セキュリティー

今回は時間がなくパスワードを設定しなかったが、部外者の乱入を避けるためには何らかの形でアクセス制限を設ける必要がある。また単位取得可能な研修の場合、投稿している人が本当に参加者かどうかを確認する術がないため、オンライン研修を予備的なものにとどめておくのが賢明といえるだろう。

4.2 インターネットの不安定性と研修の日程

インターネットは必ずしも24時間使えるとは限らない。サーバーがメンテナンス中だったり、個人のコンピュータあるいはインターネットプロバイダー側の何らかの問題が原因でアクセスできないことが多々ある。今回の予備研修では技術的な問題の他にも、多くの参加者が学校で与えられたアドレスを連絡先として利用していたが、それが夏休み中に停止されてしまい何日か連絡がとれず宿題の投稿が遅れてしまったといったトラブルも起こった。オンライン研修の日程は、このような事態を事前に考慮に入れながら計画しなければならない。

4.3 参加者のITリテラシー向上

今回の参加者のほとんどが既にインターネットで日本語の読み書きを経験しており、初めての参加者も大きな問題もなく日本語化ができた。しかし米国の日本語教師の中には、英語のOSの日本語化の複雑さが足枷となって未だにコンピュータの基本操作さえままならない人が見受けられる。Multilanguage User InterfaceのOSが普及するにつれて、この問題は解決されていくと思われるが、当面このような教師に対して日本語教育の観点からコンピュータの基本を指導していく必要があるであろう。

まとめ

オンラインによる予備研修は研修期間の短縮に対する解決策として一定の効果が得られたと考えられる。今回の経験から、従来研修開始後の数日間を費やしていた導入部分をオンライン

化することで以下の点において有効である可能性が高いことが判明した。

- (1) 参加者が研修開始後すぐに本題に入ることができる。
- (2) 研修期間の短縮化に伴う内容変更を最小限に抑えられる。
- (3) 日本語教育にIT導入を考えている参加者自身が実際にコンピュータを利用して学ぶことが体験できる。
- (4) 参加者のパーソナリティーが研修前にある程度把握できるため、ルームメートの組み合わせがしやすい。